

第6学年総合的な学習の時間学習指導案



平成28年10月28日(金)5校時
 武蔵村山市立第三小学校
 第6学年1組28名
 教諭 壽田牧子

研究主題 「人との関わりを大切にし、豊かに表現できる児童の育成」
 ～グローバル人材育成に向けたオリンピック・パラリンピック教育の充実～

1 単元名 「おもてなし～日本が世界に誇る伝統文化～」

小単元1 『おもてなしってなんだろう』

小単元2 『茶道のおもてなしの心と技～お茶会を成功させよう』

小単元3 『仕事にみるおもてなしの心と技』

2 単元の目標

- ・日本が世界に誇れる「おもてなし」について、自分なりの課題を見付け、探究したことを相手や目的に応じて表現し、日本人としての誇りと自覚をもつ。
- ・日光の移動教室で学んだことを生かし、相手に喜んでもらえる、楽しんでもらえる「おもてなし」の心と技を追究する過程で、日常生活や、周りの仕事の中で「おもてなし」がどのように生かされているか気付く。
- ・自分たちが住んでいる町の中で、地域の一員として地域に役立つことを考え実行する活動を通して、地域に貢献する意識を高め態度をもてるようにする。

3 単元で育てようとする資質や能力及び態度

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
ア 問題状況の中から課題を発見し、設定する。	オ 目標を設定し、課題の解決に向けて行動する。	キ 異なる意見や他者の考えを受け入れる。
イ 目的に応じて手段・方法を選択し、情報を収集する。	カ 自分の良さや可能性への気付きを広げている。	ク 友達や地域の人と協同して課題を解決する。
ウ 収集した情報を分析し、活用する。		
エ 相手や目的に応じて伝わりやすく表現する。		

4 単元で学ぶ内容

ア	イ	ウ
「おもてなし」の心遣いや行いがもたらす効用	「おもてなし」を行う心と技の内容と生活の中での活用	地域の交流や絆づくりを進める活動や取組

5 単元の評価規準

評価の観点	学習方法		自分自身	他者や社会とのかかわり
	課題設定	思考・分析	自己理解	協同
単元の評価規準	①身近な事象に対して疑問をもち、課題を発見している。【3-ア】 ②解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画をたてる。【3-イ】 ③お茶会を企画・実行するための課題を設定している。【4-ア】	① 課題解決に適したシンキングツールを選択し、整理分析を進めている。【3-イ、3-ウ】 ② 課題解決を目指し、事象を比較したり関連付けたりして自己の課題解決の方策をつかんでいる。【3-オ、4-イ】	①目標を設定して、課題の解決に向けて試行錯誤して行動する。また、自分の良さに気付いている。【3-オ、4-ア】 ②見方、感じ方が広がり、人より良く関わられるようになり、自分の変容に気付く。【3-カ】	①友達との良さや違いを受け入れ、協力して調査や体験を行ったりしている。【3-ク、3-キ】 ②仕事にみる「おもてなし」の心と技に気付き、自分で考えた地域のための活動を行っている。【3-エ、4-ウ】

6 指導にあたって

(1) 単元について

本単元では、「2020オリンピック・パラリンピック大会」誘致プレゼンテーションで話題になった「おもてなし」を追究する。我国の伝統文化である茶道は、人と人との交流を促進し、人々が互いに敬意を払うことを大切にしながら良好な人間関係の形成を進めてきた。茶道文化は、とかく人間関係が希薄になりがちな現代にあっても、私たちの家庭、学校、職場等のあらゆる場で日本人の精神風土として、また、日本人の心として息づいている。

本単元の学習を通し、日本が世界に誇れる文化としての「おもてなし」を子供たち自身が見つけ出すことで、日本人としての自信や誇りにつながることを期待している。

(2) 児童について

本学級の児童は、与えられた課題に対して手順通りに取り組むことができ、自信の持てる考えについてはしっかりと表現することができる。一方、自分で課題を設定し、解決していくことは苦手で、既存の課題に頼る傾向がある。学級全体での話し合いになると、進んで発言する児童は決まった少数の児童に限られる。しかし、少人数グループでの話し合いの活動にはとても意欲的で、意見の交流を活発に行うことができる。

そこで、「お茶会」などを企画、実行させることで、自分の課題を明確にし、他者との良さや違いを受け入れるようにしたい。そのために、思考ツールを使って考えを整理させたり、ユニバーサルデザインを取り入れた見やすい板書を取り入れたりする。

(3) 題材について

「おもてなし」は、日本が世界に誇る伝統文化である。人それぞれ感じ方に違いはあるが、「おもてなし」とは、概ね「嬉しい気持ちになれる」「楽しい気持ちになれる」といった感覚を抱かせる行いのことであり、優しさや親切さ、見返りを求めない心とその精神的土台となっていると考えられる。

第6学年の児童は「おもてなし」に触れる機会が多く、1学期の日光移動教室で、ホテルの従業員の方や、様々な見学先のガイドの方による「おもてなし」を受けた。さらに、海外で選手経験のある元プロサッカー選手の講話からは、日本の「おもてなし」と外国の「ホスピタリティー」の違い、日本の良

さについて学ぶことができた。

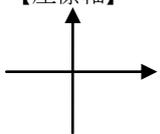
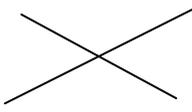
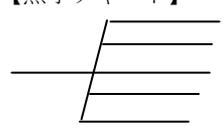
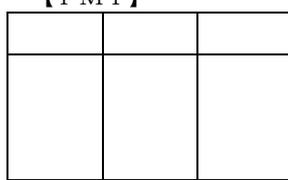
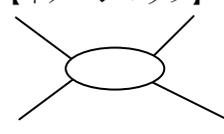
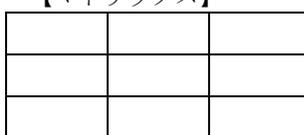
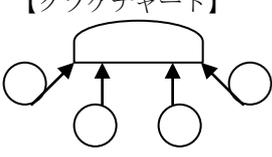
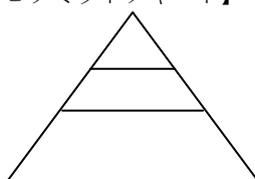
2学期は、社会科学習の発展として地域に住む茶道教室の先生をお招きして行う「茶道教室」をきっかけとして、「おもてなし」を学習材として追究する。

本単元の授業の構想は、「おもてなし」に関わって想定される出会い、活動による驚き、問い、気付きなどをイメージマップに描いて検討した。その結果、学習の広がりや発展を通して得られる児童の学びに、様々な可能性を見出すことができた。「おもてなし」は、「体験する」「コミュニケーションをとる」「調べる」「企画する」「実行する」活動への広がりや、友達と協同して学習を進められる学習材である。

検討の結果、第6学年では総合的な学習の時間の単元として「おもてなし」の追究を、通年の題材として設定した。児童に一つ一つの課題解決に向けた活動を進めさせる過程で、思考力・表現力・判断力を高めるとともに、自己の成長や達成感も味わわせていく。また、お茶会を企画・実行する学習とも関連させて、「おもてなし」を仕事としている人の思いや活動を調査させる。「おもてなし」の心に基づく「きめ細かいものづくりの精神」、「相手の立場に立ったサービス精神」「交渉に生かされるおもてなしの心」などの日本の企業活動を支える力にも触れさせたい。

【本単元で活用する思考ツール】

本単元では様々な場面で思考し、表現する場面を設定している。その際に、思考ツールを活用することで、考えの「見える化」「操作化」が図られ、学習活動を効果的に進めることができる。

①比較・分類する	②多面的にみる	③関連づける	④構造化する
<p>【座標軸】</p>  <p>※自分たちでできることとできないことを分類する活動</p> <p>【Xチャート】</p>  <p>※アンケート結果を視点ごとに分類する活動</p>	<p>【熊手チャート】</p>  <p>※茶道の先生から教えてもらったことを整理する活動</p> <p>【PMI】</p>  <p>※プレお茶会を行った反省を3つの観点から出し、多面的に見る場面</p>	<p>【イメージマップ】</p>  <p>※おもてなしについてのイメージを広げる活動</p> <p>【マトリクス】</p>  <p>※お茶会を行うために、必要なことを整理する活動</p> <p>【クラゲチャート】</p>  <p>※お茶会の反省を要約</p>	<p>【ピラミッドチャート】</p>  <p>※茶道のおもてなしの大切なことを検討する活動</p>

7 研究主題に迫る手だて

(1) 研究仮説

【仮説1】 オリンピック・パラリンピック教育の視点から授業の充実を図ることが、児童の視野を広げ、グローバルな社会を生きる人材となる素地を養うことに繋がるであろう。

【仮説2】 児童一人一人が分かる授業を展開するために授業作りに授業のユニバーサルデザイン化の手法を取り入れ、ねらいの達成から逆算した授業作りを行えば、児童の学習意欲や主体的に学ぶ態度、豊かな表現力を養うことができるであろう。

(2) 目指す児童像

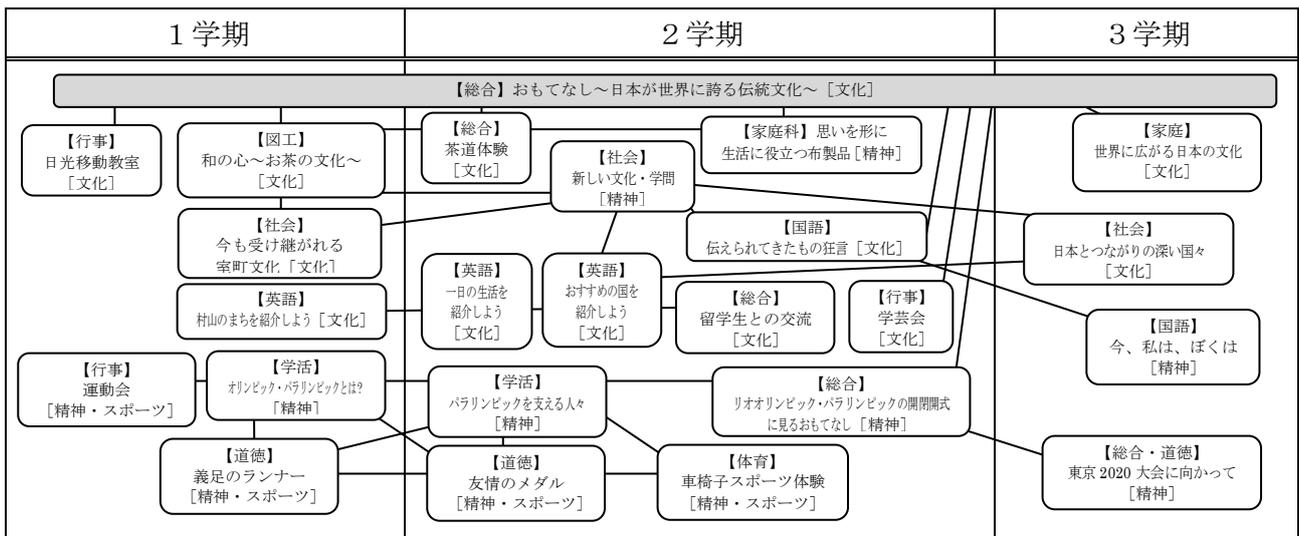
高学年	自他のよさを認め、主体的に相手と関わり合いながら、表現活動を工夫したり、自己の最善を尽くしたりすることができる児童。
中学年	自他のよさを感じ、相手との関わり合いを通して、目標に向かって、主体的に表現できる児童。
低学年	自分のよさを感じ、相手との関わりを大切に、楽しく表現することができる児童。

(3) 本単元におけるオリンピック・パラリンピック教育理念との関連

重点的に育成する五つの資質		4つのテーマ×4つのアクション (本時)
ボランティア マインド	スポーツへの興味関心 フェアプレーやチームワークの精神 心身ともに健全な人間に成長	文化×学ぶ
日本人としての 自覚と誇り	日本人としての規範意識 公共の精神等 日本の伝統文化や細心の文化への理解 世界に発信する力	

※その他には、アスリートによる体験教室や留学生との交流、学芸会の招待状の書き方を学ぶなどの伝統文化的学習も行う。年間を通して、「東京都オリンピック・パラリンピック教育実施方針」に沿った活動を意識して設定する。

(4) 他単元及び他教科との関連 (他教科・他領域や日常的な指導等との関連)



1 学期は、総合的な学習の時間を軸に、国語、社会、英語活動、図工などを関連付けた指導を行った。また、この活動は2つの面から考えられる。一つは社会や、図工のようにオリンピック・パラリンピック教育の理念である日本の文化について学ぶという活動を設定したことである。もう一つは、国語や英語活動で行った自分の考えを相手や目的に応じて表現するという活動である。1 学期は文化を学び、それを表現するための準備段階とも言える。

2 学期は、地域の茶道家の方を招いての茶道体験から始まり、実際に「おもてなし」を受ける体験した後に、自分たちでも「おもてなし」をするという活動を中心に扱っていく。そこでは、1 学期に図工で作成した茶器、家庭科で作るエプロンを使い、自分たちで一からお茶会を開催する。また、国語や社会において日本の伝統文化の学習を同時に進めながら、日本が世界に誇る伝統文化を学び、来る東京五輪に向けて、日本人としての自覚と誇りを育む児童を育成していく。

第6 学年では、オリンピック・パラリンピック精神に関する学習を中心に「おもてなし」を据え、様々な学習活動につなげていき、充実した学びにしていきたい。

(5) 本時の指導におけるユニバーサルデザインの視点について

本時の授業計画の組み立て（ねらいの達成から逆算）

授業展開	活動の様子	授業のユニバーサルデザイン視点
ねらいの達成 ↓	友達とのかかわりに ついて、自分自身を振 り返る。	児童が自分の意見を考えたり、まとめたりすることができるように、思考ツールを活用させる。また、まとめ・表現活動を工夫させる。【焦点化】
展開 ↓	自分たちが体験した 「おもてなし」を整理 して、自分たちででき る「おもてなし」につ いて企画・実行・振り 返りをする。	①日光の移動教室や、ゲストティーチャーの話を整理・分析する。その際に思考ツールを活用させる。【視覚化】 ②自分たちで開く「お茶会」の魅力を感じさせる。【焦点化】 ※図工で作った茶器の活用。家庭科で作ったエプロン・ランチョンマットの活用などを取り入れさせ意欲を高める。 ③より良い「おもてなし」実現のため、プレお茶会でのアンケートを実施し活用させる。【焦点化】
授業の導入	「おもてなし」とは何 かを考える。	①児童の興味・関心を引き出す映像資料を活用する。【視覚化】 ②思考ツールでイメージできたことを「見える化」させる。 【視覚化・焦点化】
個別支援	・課題が見付からな い。 ・改善策が思い付かな い。	①個別に言葉掛けを行い、具体的な場面を想起させる。 ②想起させた事柄から、「自分だったらどうする？」と投げかけ、自分の問題としてとらえさせる。

8 指導計画（全45時間）

小単元名	小単元の目標	○主な学習活動 ・予想される児童の考え	○支援 ☆評価【評価方法】
「おもてなし」ってなんだろう。	日本が世界に誇る文化の一つである「おもてなし」に関心を持ち、おもてなしの意味や、「よさ」について調べることを通して、自分たちに必要な課題に気付く。	<p>○「おもてなし」について考える。</p> <p>【課題設定場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージマップを使い、自由に思考を広げる。 ・まだまだ情報不足だと気付き、自己の課題を設定する。 <p>【情報収集場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットや図書資料から必要な情報を集める。 ・移動教室での実際の体験から「おもてなし」を感じる。 ・ALTやゲストティーチャーの話から「おもてなし」をとらえる。 <p>【整理・分析の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の「おもてなし」が世界に自慢できる理由を分析する。 ・自分たちにできる「おもてなし」と、長年の技がなせる「おもてなし」を比較する。 <p>【まとめ・表現の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おもてなし」について、クラスでの共通のとらえ方を、模造紙に表現する。 ・学習をふり返り、次への課題をもつ。 	<p>○「おもてなし」について客観的に見つめるきっかけとして、2020年の東京オリンピック招致プレゼンテーションでの動画を見せる。</p> <p>○色々な情報収集の仕方を提示する。</p> <p>☆インターネットや、図書資料、体験から収集した情報を思考ツールを使って、整理し、分析している。</p> <p>【3-U】</p> <p>○自分の思った良さと、外国と比較しての良さをもとに自分の考えをもたせる。</p> <p>○ベン図を使うことを促し、違いを見える化する。</p> <p>○個人の考えを付箋紙に書き、グループ→全体とKJ法を用いて、まとめていく。</p>
茶道の「おもてなし」の心と技	茶道体験で茶道の達人との交流を通して、自分たちも日本の伝統文化である茶道で、地域の人を「おもてなし」するために、自分にできることを考え、実行することができる。	<p>○地域の方を招いて、お茶会をする。</p> <p>【課題設定の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶道体験をして、自分たちで「お茶会」をするという目的をもつ。 <p>【情報収集の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お茶会」開催のために、必要な準備をマトリックス表に整理する。（本時） ・学校に携わる方（主事さん・給食室の方、事務室の方）を招いて、プレお茶会を実施する。 <p>【整理・分析の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレお茶会を実施してみたの課題と改善策を考える。 <p>【まとめ・表現の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方を招待してお茶会を開催する。 	<p>○茶道体験を通して自分たちでも「お茶会」を開催したいという希望をもたせる。</p> <p>☆お茶会を企画・実行するための課題を設定している。</p> <p>【3-A】</p> <p>○活動がイメージしやすいように、茶道体験の様子をTV画面に映し出す。</p> <p>○参加者にアンケートを記入してもらい、課題を明らかにする。</p>
仕事にみるおもてなしの心と技	身の回りの様々な仕事における「おもてなし」に関心を広げ、自分にできることを見付けることができる。	<p>○仕事によって「おもてなし」に違いはあるのか、追究し、自分にできることをつかむ。</p> <p>【課題設定の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事によって、「おもてなし」に違いがあるのか、自分の関心のある職業・職種について課題を設定する。 <p>【情報収集の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッズニアでの体験を通して、自己の課題を解決するための情報を収集する。 ・様々な業種・職種の方を招いて、話をしていたく。 <p>【整理・分析の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後自分が身に付けたい技や、必要な資質などの視点で集めた情報を整理していく。 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有言実行できることを見付け、自分にできることを一枚のポスターにまとめる。 	<p>○世の中にはたくさんの職業・業種があることを数値で提示し、興味・関心を引き出す。</p> <p>☆自分の良さや可能性に気付き、関心のある職業について課題を設定している。</p> <p>【3-カ】</p> <p>○整理・分析がしやすい思考ツールの使用を促し、自分の課題にあったツールを選択できるようにする。</p> <p>○選挙ポスターのような完成形をイメージさせ、ゴールイメージをはっきりもたせる。</p>

9 本時の学習（20/45時）

(1) 本時の目標

前時にまとめた自分たちにできる「おもてなし」を活用して、相手に楽しんでもらうために、どんなことができるか具体的に考え、計画を立てる。

(2) 展開

過程	学習活動と予想される反応 ・予想される反応	●指導上の留意点 ◆個別の配慮 ◎評価【観点】(方法)	☆ユニバーサルデザインの視点
導入 5分	1 本時のめあてを確認する。 ・図工で作ったお茶碗使おう。 ・自分たちでもお茶会をしたい。 ・感謝を伝えたい。	●前時の振り返りから、本時のめあてをイメージさせる。 プレお茶会の計画をたてよう。	☆児童がおもてなしで大切なことをまとめたピラミッドチャートを活用
展開 37分	2 自分たちにできる「おもてなし」の確認をしよう。 ・礼儀正しくする。・笑顔で迎える。 ・季節を感じさせる。 3 楽しんでもらえる工夫を考えよう。 ・テーブルセッティングを考えよう。 ・絵を描こう。 ・招待状を書こう。 4 付箋紙に自分でできるおもてなしを書く。 5 マトリックス表にまとめる。 ・同じものを集めよう。 ・付箋紙を動かして分類・整理する。 ・できることを決める。 (掛け軸、季節の花、歌、招待状)	●思考ツール(座標軸)を使ってまとめたものを掲示する。 ●茶道体験で学んだことを思い出す。 ●全体で共有した後、具体的な活動になるよう、小グループで話し合う。 ◆個人で具体的に考えることができるよう、付箋紙に書く。 ●1人何枚でも書けるように付箋紙を準備する。まとめて書かせず、たくさん出させる。 ●できることをまとめて、考えを整理しやすくする。	☆児童の思考を促すため、画像資料を活用(茶道体験の様子)【焦点化】 ☆全体で課題を共有した後、小グループで検討し、個人で考えることができるようにする。【構造化】 ☆付箋紙を使い、張ってはがせる状態でマトリックス表に張っていく。【視覚化】
終末 3分	6 本時を振り返る。 次時へ向けての課題の確認をする。 ・お茶会での係 ・準備するもの。	◎解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画をたてる。【課②】 (児童の発言分析・付箋紙への記入)	

10 板書計画

